

平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【生活造形学科】

【アパレルコース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
18JHEA1010	初期演習	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。						◎			◎		
18JHEA1020	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。						◎				◎	
18JHEA1030	英語会話Ⅰ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話が英語でできるようになることを目標とする。											◎
18JHEA1040	英語会話Ⅱ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話Ⅰ」で身につけた基本的会話表現・スキルを応用し、さまざまな状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。											◎
18JHEA1110	生活学概論	1	人間にとって基本的な生活領域である家庭生活に焦点をあて、地域や社会、また歴史的变化などとの関連も含めて、生活の現状を実証的かつ総合的に把握し、生活課題を明らかにする。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生が家庭のあり方を問い直すことを通して、自分と家族の充実した生活を創造する能力を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					◎					
18JHEA2210	消費科学	2	「消費科学」は生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える科学である。この科目はテキスタイルアドバイザーの資格科目であるので、衣生活の面を中心に消費を考え、生活者として、またアパレル分野で活躍する際に必要な考え方と知識を体系的に身につける。	衣生活を中心として消費者が望む品質を知り、消費者行動を理解する。また、繊維製品の生産・流通・消費についての一連の基礎的知識を修得する。	◎					◎					
18JHEA2220	ファッションマーケティング論	2	将来アパレル業界へ就職を希望する学生を中心に、現在のファッション業界をリアルタイムで内容を講義する。一人でも多くのファッションスペシャリストを育成するのが目標である。	アパレル業界の基礎知識の習得と、同業界での様々な職種の基本的な内容の習得。	◎					◎					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性									
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2													
18JHEA2230	消費者調査法演習	2	多様化、複雑化する現代の消費行動に対しては、消費者意識や消費実態に関する正確な把握と分析が不可欠である。そのためには、目的に合った適切な調査の実施やデータを正確に読み解く人材が求められる。本授業では、消費者調査法を理解し、調査を実践し得る力を養うことを目的とする。	本授業では、調査の企画・立案から結果の分析に至るまでの具体的な演習を通じて、消費者調査法の知識と技術を修得することを目標とする。					◎		◎										
18JHEA1210	ファッションビジネス論	1	広範囲のファッション産業の中で、より感性の高い商品を求める消費者ニーズに対応するためにファッションビジネスの概要を学ぶ。	人々のニーズに応じて適切な商品を提供するために、ファッション企業の構造を知り、社会に出たときに迅速に対応できる能力を養う。	◎														◎		
18JHEA1430	色 彩 学	1	身近な表現手段の一つである色彩に親しみ、色が見えるしくみやカラーコミュニケーションの主な方法や色彩の実用価値や効果を知ること、色彩を有効に活用するための基本的な知識を身につけることを目的とする。	(1) 光と色の関係について説明できる。 (2) 各授業回で展開する色に関する基本的な知識項目について、それぞれの意味を説明できる。 (3) カラーコミュニケーションの基礎的な方法を理解し、その手法を用いて「色」を適切に表現できるようになる。 (4) 色彩の実用価値や効果を知ること、生活を営む上で「色彩」を有効に有意に用いることができるようになる。 (5) 本授業は色彩検定3、2級の内容に準拠しており、資格取得に向けた目標を持つことができるようになる。				◎											◎		
18JHEA1460	カラーコーディネート演習	1	カラーコーディネートとは配色を重視して、その目的や条件に則した客観的で適切な色彩表現のことである。それには「色」を選び、組み合わせ、相互に生かすことが重要となる。本授業では、配色の類型やその特徴について演習を通して知識を深めるとともに、イメージを色で表現するトレーニングを積み重ねて実用的な色彩表現力を身につけることを目的とする。	本授業では、知識としての色彩からさらに一歩進め、色彩を実際の表現手段として活用できるようになることを目標とする。主として色彩検定3、2級の知識内容を演習で身につけファッションにおけるカラーコーディネートの基本的手法や配色による効果を理解する。さらにコレクションからカラートレンド分析を経て、トレンドカラーイメージマップにより客観的で適切な色彩を表現できるようになる。															◎	◎	
18JHEA2120	住 居 学	2	住むということについての身近なことから、これからの住まいの空間のあり方を学ぶ。そして住まうとは地域社会の形成にも密接に関係しており、住まいづくりから街づくりまで広い視野から住まいのあり方を見ていきたい。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	住まいの多様性と歴史的变化を理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。															◎		◎
18JHEA2140	保 育 学	2	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。															◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
18JHEA1550	パターンメイキング演習	1	アパレル分野には①商品企画②クリエーション・デザイン③スタイル画（素材・色・柄・アクセサリ・他）④パターンメイキング（裁断）⑤縫製⑥スタイリング⑦ファッションビジネス（販売）の工程がある。①～⑦の工程を実践と参考資料等で把握させた上に、④のパターンメイキングに関し、衣服設計の基礎理論と応用を、演習を通して習得する。ドラフティング（平面裁断）の手法から人体の立体構造（三次元）を把握させることを目的とする。	アパレル分野の技術、感性職（パタンナー）の役割は衣服の完成度に大きく拘っている。デザイナーが描くスタイル画の、表現されている意図をいかに読み解き、型紙（三次元）を製作するかが問われます。人体の把握と基礎理論、さらに感性豊かな应用能力の発育と成果を到達目標としている。						◎		◎			
18JHEA1510	アパレルコンストラクション	1	本科目では、衣服の起源、様々な衣服の形状、衣服の変遷を踏まえて、アパレル製品の製作に必要な人体計測、パターンの基礎、縫製の基礎、素材となる布の特性について、理論的に学習する。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アパレル製品の製作に必要な人体計測、パターン製図、縫製の基礎、素材となる布の特性についての知識を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。							◎		◎		
18JHEA1520	アパレルコンストラクション実習Ⅰ	1	最も身近な環境である衣服、その衣服製作の一連の過程を学び、衣服構成に関する知識と技術を習得する。またこれらを応用発展させる能力、ファッション性や美的感性、さらには既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	衣服パターンの製図、衣服の組み立て工程、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性、などの理解と、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用技術が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。								◎		◎	
18JHEA1540	アパレルコンストラクション実習Ⅱ	1	身体を包む衣服の造形について、ブラウスを制作することにより、ダーツによる身体曲面へのフィット、機能性を考慮した適切なゆとり量および、パンツの製図・制作では脚部の形状、股上の縫製など基礎理論ならびに造形技術を習得し、さらに应用能力を養うことを目的とする。	アパレルコンストラクション実習Ⅰに続き、基本的な服種（アイテム）の服作りを通じて服飾全般の知識と技術を身につけることを到達目標とする。									◎		◎
18JHEA2520	ドレーピング実習	2	人体の構造と形態を理解し、正しく布目を読み取る視覚に慣れ、動作機能を踏まえた着心地のよいバランスのシルエットをドレーピング（立体裁断）技術の習得により学び、デザイン性のある衣服の造形表現能力を養うことを目標とする。	衣服を構成するパーツの形状と人体との関係性を理解し、立体から平面へ置き換えるパターン作りを習得し、自らのデザイン画から立体を具現化できるようになることを到達目標とする。									◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2					
18JHEA1530	アパレル生産実習Ⅰ	1	現在使用される衣料のほとんどは既製衣料である。工業的に量産化されている既製服の製造行程についてアパレル生産に必要な基礎的な知識と技術を実習を通じて理解し、その問題点や改良点を考え合理的な生産性へと発展できる能力を養うことを目的とする。	アパレルが設計、縫製課程を経て実践するまでの主要な工程の要点と流れが理解できることを到達目標とする。						◎		◎						
18JHEA2510	アパレル生産実習Ⅱ	2	アパレルで工業的に量産化されている既製服の製造行程に関して、企画、設計、生産、品質管理、プレゼンテーションの各業務の実習を通して理解し、その問題点や改良点を考え、応用能力を身につけることを目標とする。	アパレルの工業生産における各業務について理解し、分業体制の中で責任感を持った行動を取ることができるようになること、分業体制における情報伝達の工夫や努力ができるようになることを目標とする。また、生産体系における管理者としての視点も持てるようになることも目指す。								◎		◎				
18JHEA2410	アパレル企画演習	2	アパレルメーカーが商品を供給するうえで、最も重視する「商品企画」を学び、現実性のある企画ができるよう演習を行う。市場で見るアパレル製品はどのような考えのもと、生産されていくのかを理解する。また、グループでの演習によるミニ社会で自分の意見を伝え、他の意見を聞く力を身につける。「企画とは、市場ありき」を体感できるようにする。	地域と商業施設、商業施設と店舗、店舗と商品、商品と消費者、消費者と生活、このような流れをアパレル製品を例にして、理解できるようにする。ターゲットである消費者の生活の一部を演出するアパレル製品の魅力は、どこにあるべきなのかを考え、企画できるようにする。								◎		◎				
18JHEA2530	織物実習	2	織るという行為は、世界を構築すること。それは、経糸に緯糸を織り込んでいく過程において実感できるものである。言葉では表現できない思いや感情、みずからの奥底に眠っていたイメージを1本の糸にたくして織り上げていく。そうした体験を通じて創造性・美的感性を開発する。	織の技法を通じて表現することによって、基本的なデザイン力を身につけながら、オリジナルな表現を獲得する。										◎		◎		
18JHEA2430	V M D 演習	2	ファッションビジネスにおいてVMDの果たす役割は重要である。この科目では、VMDの考え方や表現方法（ディスプレイ）を学び、発想力、表現力、計画性、チームワーク等のスキルを身につける。	ファッションビジネスの現場で即戦力となりうる人材育成を目標とする。											◎		◎	
18JHEA1440	ファッションコンピュータ実習	1	近年、アパレル業界においてもコンピュータは幅広く利用されており、CG（Computer Graphics）によるデザインやプレゼンテーションが必須となっている。アパレル業界、デザイン業界で広く使われているグラフィックソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）の基本操作、コンピュータを使ったビジュアル表現の方法を学び、それらの技術を修得する。	IllustratorとPhotoshopの操作ができる。ハンガーイラストの作成およびスタイル画の着色にCGを活用できる。素材感の表現やカラーバリエーションの展開など、効率よく効果的に自らのデザインを表現する。											◎		◎	
18JHEA2420	アパレルCAD実習	2	近年のアパレル業界では、パターン設計用のCADシステムの利用は不可欠である。アパレルCADシステムを使用して衣服パターンの設計方法を学ぶ。	アパレル生産に有効なCADの技術を理解し、CADを使って衣服の型紙製作ができるようになる。											◎		◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
18JHEA2440	テキスタイルコンピュータ実習	2	テキスタイルデザインソフト（4Dbox PLANS）を使用してデザインを行い、テキスタイルに要求されるデザインの特性について学ぶ。ファッション業界の現場で即戦力となりうる人材を育成する。	4Dbox PLANSを自在に操作することのできる技能を身につける。先染め織物の糸を考案し、織り方を工夫して設計をすることができる。プリント染色の図案を描くことができ、生地柄を作り出せる。ニットの編み図を入力し、模様編みシミュレーションをすることができる。作品のプレゼンテーションボードを作成し、テキスタイルの特徴や商品化イメージを明確に伝えることができる。						◎		◎		
18JHEA2540	クリエイティブデザイン実習	2	各自のオリジナルによる衣服の制作を目的とする。	二年間のアパレルデザイン学習の集大成として、ファッションアイテムの創造過程を総合的に統括し、実践することを到達目標とする。						◎		◎		
18JHEA1310	織 維 学	1	繊維の基礎をしっかりと身につけ、使用に適した素材の選択、取り扱いなどに役立つ幅広い知識を身につけることが目的である。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	繊維の構造と性質を分子論的、微細構造的、形態的に考えることができ、繊維素材の種類、性質、用途の基本を理解することで、それらの知識を実生活でも活用できる力を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
18JHEA1320	織 維 学 実 験	1	「繊維学」で学んだ基礎知識について、実験をとおして理解を深める。さらに、高度化、複雑化している衣料品の品質管理や苦情処理に対応するための衣料素材の鑑別法や、事故原因の鑑定方法などの技術習得を目的とする。	繊維の形態や性質について、実験をおこなうことで実際に体感することによって、さらに理解を深める。さらに、繊維製品に生じた事故原因の究明や苦情処理の解明に必要な試験法を修得して、その能力を確かなものにする。特に、テキスタイルアドバイザーの取得を目指す学生は、社会で必須となる衣料やインテリア素材等の諸性能の理解に努め、さらに事故原因の究明や苦情処理の解明ができる能力をしっかりと修得する。			◎				◎			
18JHEA1330	アパレル材料学	1	被服・アパレル製品にはどのような機能や消費性能が要求されるか、といった観点から「繊維学」で学ぶ繊維の各論に続いて、被服を構成する糸や布などの材料に焦点を当て、一連の知識と理解を深める。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	衣生活において、さらにアパレル関連の業務に就いた時に、学んだ知識が活用できる能力を育成することを目標としている。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			
18JHEA2310	アパレル材料学実験	2	アパレル関連の広い分野において被服材料を扱っていく上で、材料面からみた性能評価は重要な役割をもっている。ここでは基本的な試験の実技習得を目的とする。	各種試験技能の習得に加え、1年次のアパレル材料学で培った知識をもとに、得られた結果が実用に対してどのような意義をもつかを考え、正しい性能評価のできる能力を育成する。			◎				◎			
18JHEA1340	被 服 整 理 学	1	「被服整理」とは、使用途中の被服をきちんと整えるということで、そこには洗濯や漂白、手入れや保管といった行動が伴う。ファッション製品は、色柄やデザインがいくら良くても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下したりしては困る。製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎					◎			

平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【生活造形学科】

【インテリアコース】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
18JHEI1010	初期演習	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。						◎		◎		
18JHEI1020	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。						◎			◎	
18JHEI1030	英語会話Ⅰ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話が英語でできるようになることを目標とする。										◎
18JHEI1040	英語会話Ⅱ	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話Ⅰ」で身につけた基本的会話表現・スキルを応用し、さまざまな状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。										◎
18JHEI1410	住居学	1	住むということについての身近なことから、これからの住まいの空間のあり方を学ぶ。そして住まうとは地域社会の形成にも密接に関係しており、住まいづくりから街づくりまで広い視野から住まいのあり方を見ていきたい。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	住まいの多様性と歴史的变化を理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎								
18JHEI1130	人間工学	1	本授業の目標は、私達が日常生活して行く上で最も身近な道具や設備、環境等と人間との間に存在する諸条件を学び、それらの関係がより適正に結びつく条件を導き出すことにある。さらに、消費者としてモノ選びの際に、人間工学の視点から人とモノとの関係を正しく見つめる能力を養う。	人間工学の視点からデザインでき、さらに消費者として適切なモノを選ぶことができる。		◎				◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2												
18JHEI2210	マーケティング論	2	マーケティングという考え方をインテリア・デザインに生かすために、まずさまざまな分野で、どのような社会的な問題があり、それにたいしてマーケティングはどのような答えを与えているのかを学ぶ。それを踏まえた上で、インテリア・デザインがどのように具体的な形を与えているかを学んでいく。	マーケティングの考え方を理解した上で、インテリアのデザインを行う。	◎						◎									
18JHEI1110	カラーコーディネート論	1	本授業は、光と色、人間の眼の構造などの物理・生理的側面、色の三属性や伝達方法、配色の理論など、色彩学の基本的な知識を多面的に学び、生活において色彩を活用する力を養うことを目的とする。	色彩に関する基本的な知識を説明し、色を適切に表現できるようになる。また、色彩の効果を知ること、色彩を適切に用いることができるようになる。							◎									
18JHEI1210	C G 基礎実習	1	コンピュータグラフィックス（CG）には様々な種類のソフトウェアがある。この科目ではPhotoshopとIllustratorを使用してグラフィックデザインの手法を学びつつ、インテリアデザインにおけるプレゼンテーションツールの作成を学ぶ。	コンピュータを使用して、自分の考えた空間プランを表現できるようになる。								○		◎		◎				
18JHEI1220	C A D 基礎実習	1	CADソフトの2次元機能を理解し、製図道具の一つとして使いこなせるようになることが目的である。	自分でデザインした空間の2次元図面をCADソフトで描けるようになることが到達目標である。										◎		◎				
18JHEI2210	住宅・インテリアCAD実習	2	CADソフトの3次元機能を理解し、製図道具の一つとして使いこなせるようになることが目的である。	この科目ではCAD（Computer Aided Design）の3D機能（透視図などの立体表現）をデザインツールとして使いこなし、自らがデザインした空間を素早く確認し、魅力的にプレゼンテーションする技術の修得を目標とする。										◎		◎				
18JHEI1420	基礎・住宅製図	1	住宅、インテリア設計において、設計図面はデザイン意図を他者に伝えるための重要な手段であり、さらには優れた住宅・インテリア空間を理解するには、図面から空間を読み取る能力が必要である。この科目では設計製図における基礎知識と表現技術を学び、製図法、空間の各部位、構造、スケールについての理解を深めることを目標としている。	次学期以降の設計実習において、各自が考案した住宅・インテリア空間を設計図面、模型、透視図で表現できる製図知識と技術を習得する。			○							◎		◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性									
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2													
18JHEI1120	ベーシックデザイン実習	1	平面や立体デザインの課題から受けた刺激＝イメージは「色や形」の構成作品として表現することによって人に伝えることができる。近年、CG表現の可能性は急速に拡大しているが、デザイン表現における「手作業」は、アイデアの展開や問題解決の糸口を見つけることに繋がる重要で欠かせないプロセスである。平面や立体デザインの課題が要求する意味を「色と形」にして考え、デザイン表現の試行錯誤により「色と形」が持つ意味や説得力・発展性・可能性を探究する。また、感性のレベルアップを図り「色と形」による表現力を修得し、デザイン表現の面白さと可能性を知ることを目的とする。	平面・立体の各構成課題により、デザイン表現の基礎となる平面構成力・色彩表現力・立体構成力・素材を活かした合理的な表現力等を修得する。						◎		◎									
18JHEI1440	建 築 史	1	西洋と日本の建築について、時間的な展開の概要を理解することを目的とする。	それぞれの地域や時代による構造や意匠の特徴、あるいは共通点について理解することを目標とする。	◎										◎						
18JHEI1140	現代デザイン論	1	インテリアデザイナー、建築家などのデザインは、アマチュアの作品とは違うといわれている。どこが違うのだろうか。優れたデザインの条件とはなんだろうか。優れたデザインをするにはどうしたらよいただろう。これらのことについて、考えを深める。	現代デザインの基盤やそれが出来た背景、トータルに空間をデザインする場合の目的や方法について理解する。											◎						
18JHEI1310	インテリア・家具製図	1	アイデアやデザインを使い手・作り手双方に正しく伝えることが図面の持つ役割である。そして作図するうえで重要なことは分かりやすさと正確さである。この授業ではデザインの伝達の手段として製図の基礎を学ぶ。	空間や物体を三次元の対象物としてしっかりと捉えること、そしてそれを使い手・作り手双方に正しく伝える手段として、二次元で表現する力を基礎から実習を通して習得する。													◎		◎		
18JHEI1350	コーディネート・リフォーム実習	1	生活に合わなくなったマンションの1住戸をリフォームし、インテリアをコーディネートする。コンセプトをたて形にするプロセスと、その成果をプレゼンテーションする方法を身につける。	ヒューマンスケールでの寸法の検討、形態をまとめる際のデザインコンセプトの必要性などを理解し、インテリア空間の設計手順を修得する。													◎		◎		
18JHEI1330	インテリアエレメント制作実習Ⅰ	1	インテリア空間を構成する重要な要素であるインテリアエレメントに関する実習課題をとおして、人・もの・空間相互の関係や役割を学ぶとともに、インテリアエレメントに関するデザイン提案力を身につける。	実素材による制作課題を通じて、素材を活かした柔軟な発想力・技術力・表現力を習得する。														◎		◎	
18JHEI2310	インテリアエレメント制作実習Ⅱ	2	インテリアエレメント制作実習Ⅰでは、インテリア空間を構成するエレメント（要素）の基礎的な知識を学んだ。制作実習Ⅱでは、実際に手と身体を動かしてインテリアエレメントを企画・制作し、生活空間における人とインテリアエレメントとの豊かな関係を発見し提案することを目的とする。	まず、木材（シナベニアなどの合板や無垢材）の様々な性質（強度や質感など）を知識だけでなく、身体で知ること目標とする。また、実際に制作するインテリアエレメントの機能性や構造を考え、組み立て方を工夫すること。さらに、安全性の確認、地域性の表現、エコロジーやユニバーサルデザインなど、今日的な様々な視点から、総合的な構想力を身につけることを目標とする。															◎		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2										
18JHEI1340	インテリアテキスタイル制作実習	1	様々なインテリアテキスタイルが私たちの生活の場で利用されていることを学び、さらに、自分で考えたオリジナルテキスタイルを利用したインテリア製品を、CG基礎実習などの学習成果を生かして制作することを目的とする。	本授業では、インテリアテキスタイルの知識を習得し、インテリアテキスタイルの企画、提案、制作する力を養うことを目標とする。						◎		◎						
18JHEI2410	住宅・店舗設計	2	住宅や普段よく利用する店舗は最も身近な建物であるが、その設計は居住者・利用者が日々身を置く場であるだけに、他の一時的に利用する建物にくらべて難しいと言われている。ここでは居住者像ないしは店舗像を設定した上で、建築空間の提案を実施し、住宅および店舗の基礎的な設計プロセスを学ぶ。	具体的な居住者の属性やライフスタイルに合わせて2階建以下の住宅および店舗の企画立案、基本計画、基本設計を実行できる能力を習得する。		○							◎					
18JHEI2420	福祉住環境論・同実験	2	高齢者等の身体的ハンディキャップを持つ人が、慣れた環境で人間的で自立した活動をする為の環境整備が今や社会全体の課題となっている。生活者の視点に立ちあらゆる人達の活動を生活の拠点としての住環境という側面から取り上げ、人間らしい生活が送れる環境づくりのあり方について学ぶ。	安全・安心で人間らしい自立生活が送れる環境づくりを考える能力を養う。		○							◎					
18JHEI1320	インテリア計画	1	インテリアの概念の発生からその変遷と確立までを検証し、インテリアを構成する要素を学びながら、人間を取巻く環境のひとつとしてのインテリア計画のプロセスを理解する。	異なった要求条件を持つ空間を、その目的に合うように計画し実現する技術を知るために、インテリアを構成している要素とその組合せの仕組みと手法を学ぶ。									◎					
18JHEI1430	住宅計画	1	住宅は人間の基本的生活行為が行われる最も身近な空間であり、また建築の設計が「住宅にはじまり、住宅に終わる」と言われるように、住宅には建築のエッセンスが凝縮されている。よって設計初心者には取組みやすい一方で、高い完成度が求められる奥の深い建築と言える。	住宅の歴史、計画原理、手法を学び、住宅の計画に必要な基本知識を習得する。		◎							◎					
18JHEI2430	商空間計画	2	単なる「かたち」(表面上)のデザインを勉強するだけでなく、商業を成立させるために必要な要素である立地分析、マーケット(市場)分析、事業性、商品MD、テナント、空間(動線)構成、店舗デザイン、運営計画、販売促進などがどのように関連づけられ構成されているかを知る。	商業に関わるデザイン背景にある様々な要素を知ることによって、より深くデザインについて考える力を習得する。		◎							◎					
18JHEI2440	住宅一般構造	2	建築のデザインが構造といかに関係しているかを学ぶ。そして日常接するすべての建築が、どのような構造をしているかがわかるようにする。	どの建築を目にしても、その外観からその建築構造を読み取れるようにする。		◎							◎					
18JHEI2510	住宅施工	2	住宅工事の発注から完成に至るまでの各段階の内容について、そのあらましを解説し、一連の住宅施工の流れを理解する。	さまざまな場所や条件において、そこで適切な住宅の施工の方法について選択していける能力を修得する。		◎							◎					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
18JHEI2520	生活材料学	2	建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。	建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。		◎				◎				
18JHEI2530	生活材料学実験	2	主要な建築材料に関する実験を通して、材料や測定機器に触れることによって、実験計画と測定法の基礎を習得し、諸材料の性能や特性を明らかにする。加えて、建築構造および建築生産に関する基本的事項の理解を深める。	主に主要構造材料（コンクリート、鋼材、木材）について、基礎的な実験手法を通して、性質・性能を理解させる。		○		◎		◎				
18JHEI2450	建築法規	2	秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。	都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。	◎					◎				
18JHEI2540	住宅設備計画	2	現代の住宅は設備機器がなければほとんど機能せず、居住者は年々開発される多くの機器の中から生活に応じた設備を適切に選択することが求められる。省エネルギーなどの社会的関心の高い技術を中心に、住宅設備に関する基本的かつ専門的な知識を学ぶ。	住宅の企画および設計提案の場において、住宅設備に関する適切な提案ができる実務的な専門的知識を習得する。		◎				◎				
18JHEI2460	構造力学	2	建築・土木分野の基礎学問である構造力学の基本的事項について理解するとともに、力学的視点や考え方を身につけることを目的とする。	二級建築士の学科試験の問題が解けるようになることを目標とする。		◎				◎				
18JHEI2470	構造力学演習	2	構造力学で学習した事項について、演習によって理解を深め、静定構造物の支点反力や応力、断面に働く力を計算する方法を身につけることを目的とする。	二級建築士の学科試験の問題が解けるようになることを目標とする。		○		◎		◎				
18JHEI2320	室内環境学	2	室内環境を人間の心理生理から捉えるとともに、快適で機能的な住まいのあり方を理解する。	住まいの計画にあたり重要となる環境工学の考え方を理解することを目標とする。		◎				◎				
18JHEI2550	測量実習	2	測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたリモートセンシングについても習得することを目的とする。	学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎的知識および技術とその利活用法を習得する。		○		◎		◎				
18JHEI2330	自由創作A	2	インテリアコースで学んだ集大成として、自らテーマや課題を発見し、それを解決するためのインテリア空間のデザインを行う。	これまで学んだデザインについての知識や考え方、手法などを総動員し、ひととインテリア空間の密接な関係を理解した上で、ひとにとって居心地のいいインテリア空間を創造し、図面や模型などでその空間をあますところなく表現することを目標とする。						◎		◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2						
18JHEI2340	自由創作 B	2	インテリアコースで習得した知識、技能の集大成として、生活の身近にあるインテリア製品の製作あるいはインテリア空間を創造する。「物」と生活の関わりを考える。「発想から物作りへ」を体験することにより「豊かで快適、安全で健全な生活の創造」に不可欠な判断力と知識を修得することを目的とする。	自分自身が考えるインテリア空間を創造する。「物」と生活の関わりを考えた上で、「発想から物作りへ」を体験しながら、「豊かで快適、安全で健全な生活の創造」の集大成として、自らがデザインしたインテリア空間、あるいはインテリア雑貨等を制作し、発表する。						◎		◎	◎	◎
18JHEI2350	自由創作 C	2	自由創作Cは、コンピュータを使ったインテリア系卒業制作を意味する。この2年の間に学んで身につけた、インテリアに関する様々な知識と経験をベースとして、表現すべきテーマを発見し、CADやCGのソフトを利用して作品制作することが目的である。	卒業制作と呼ぶにふさわしいレベルのCGやCAD技術を利用したインテリアエレメント（生活雑貨を含む）の企画・開発・提案ができるようになることが目標である。								◎	◎	◎
18JHEI1060	海外語学研修	1	英語を母語とする社会において生きた英語によるコミュニケーションの喜びを経験することによって、英語がグローバル・シチズンへのパスポートであることを認識する。異文化を直接経験することによって、欧米の文化を正しく理解し、同時に自国文化を再認識することを目的とする。	生きた英語によるコミュニケーションができるようになること、欧米の文化を体得し、同時に、自国の文化を再認識することが目標である。										◎
18JHEI1070	海外の生活造形研修 I	1	国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身につけることは必至である。本科目ではアメリカ分校（MFWI）において、1週間の生活造形演習を行う。	グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。さらに、専門分野における英語でのプレゼンテーション能力を磨くことも目標である。										◎
18JHEI2010	海外の生活造形研修 II	2	国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身につけることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。	グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。										◎
18JHEI2610	ファッションビジネス論	2	広範囲のファッション産業の中で、より感性の高い商品を求める消費者ニーズに対応するためにファッションビジネスの概要を学ぶ。	人々のニーズに応じて適切な商品を提供するために、ファッション企業の構造を知り、社会に出たときに迅速に対応できる能力を養う。	◎						◎			
18JHEI2640	アパレルデザイン論	2	既製衣料は我々の生活の中での衣服の大部分を占めており、実用性は勿論のこと、ファッション商品として一層すぐれたデザインが要求されている。この科目では服装デザインの基礎をふまえて、アパレル産業におけるデザイン表現に視点をおき、必要な知識を修得することを目的とする。	アパレルの機能性、審美性、表現法を知り、適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるアパレルを理解し、コストとデザインとの関係についても理解できることを到達目標とする。			◎					◎		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2							
18JHEI2650	服飾文化史	2	日本において近代以降、いかにして「ファッション」という現象が起こっていったのか、そのなかでデザイナーは何をし、人々はどのように洋服やファッションを受け入れていったのかを学んでいく。この科目は中学校家庭科を教授するに足る知識・技能も修得する。本科目は、中学校家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	日本の近代史を理解した上で、単なる事件史ではない歴史を学ぶ。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎						◎									
18JHEI2630	アパレルコンストラクション	2	本科目では、衣服の起源、様々な衣服の形状、衣服の変遷を踏まえて、アパレル製品の製作に必要な人体計測、パターンの基礎、縫製の基礎、素材となる布の特性について、理論的に学習する。本科目は、中学校家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アパレル製品の製作に必要な人体計測、パターン製図、縫製の基礎、素材となる布の特性についての知識を修得する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。												◎				
18JHEI2620	繊維学	2	繊維の基礎をしっかりと身につけ、使用に適した素材の選択、取り扱いなどに役立つ幅広い知識を身につけることが目的である。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	繊維の構造と性質を分子論的、微細構造的、形態的に考えることができ、繊維素材の種類、性質、用途の基本を理解することで、それらの知識を実生活でも活用できる力を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。												◎				
18JHEI2660	アパレル材料学	2	被服・アパレル製品にはどのような機能や消費性能が要求されるか、といった観点から「繊維学」で学ぶ繊維の各論に続いて、被服を構成する糸や布などの材料に焦点を当て、一連の知識と理解を深める。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	衣生活において、さらにアパレル関連の業務に就いた時に、学んだ知識が活用できる能力を育成することを目標としている。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。													◎			
18JHEI2670	被服整理学	2	「被服整理」とは、使用途中の被服をきちんと整えるということで、そこには洗濯や漂白、手入れや保管といった行動が伴う。ファッション製品は、色柄やデザインがいくら良くても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下したりしては困る。製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。	洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。													◎			